

◆演習の授業方法

河口が担当する演習授業では、個人研究のテーマについての報告をしたり、文献を指定して各章ごとで担当を決めてレジメを作成し報告をしてもらいます。報告のあとには、5～6名くらいの小グループに分かれて、ディスカッションをします。演習で指定された文献については自分が報告に当たっていないところでも必ず読んでくるようにして、質問やコメントができるようにしてきてください。

2 年次前期末・後期末には 4000 字のレポート、3 年次前期末には 2 年次末のレポートを発展させた形で 8000 字、3 年次後期末には前期末の 8000 字レポートを発展させた形で 12000 字のレポートを提出します。2 年次前期にはまだ研究テーマは明確になっていなくてもよいですが、2 年次のあいだに、おおまかに個人研究のテーマを考えておくことが望ましいです。可能であれば、3 年次から徐々に卒業研究に向けての研究テーマに取り組むようにできたらと考えています。研究テーマについては、ジェンダー／セクシュアリティの領域や家族／親密性に関することが望ましいですが、とくにそれのみに限定はしません。みなさんの研究テーマをできる限り尊重します。

4 年次に履修する卒業研究で河口に指導を受けたいと考えている学生さんは、2 年次から 3 年次のあいだのどこかで必ず演習を履修しておいてください。2 年次・3 年次のあいだに河口担当の演習を履修していない学生の卒業研究の指導はできません。

どうしても河口担当の演習科目の履修を希望する方は、複数の演習科目でも希望を出すことをお勧めいたします。その場合には、履修前に必ず河口までメール（kawaguch@shudo-u.ac.jp）で相談するようにしてください。

演習科目のそれぞれについては、以下に詳しく説明していますが、講読予定の文献は【文献】のセクションに提示してあります。（ただし、このリストは予定候補であり、すべてを読むわけではありません。授業開始までに、より適切であるという文献が刊行されたり、発見されたりした場合にはそちらになる可能性もありますのでご了承ください。）

演習科目や授業の方法について質問がある方は、kawaguch@shudo-u.ac.jp までメールでアポイントメントを取って、研究室（3 号館研究棟 2 階 224）を訪問していただいてもかまいません。

◆演習科目の授業内容

【前期 親密性の社会学演習（ホームの社会学） 火曜 2 限】

「家族」を研究対象とする社会学の一領域としては、「家族社会学」がありますが、現在の家族をめぐる状況の変化・変容に対して、従来の「家族」という概念で分析することは難しくなっています。そうした問題に対するオルターナティブとして、「親密性」「親密圏」

という概念が提案されるようになってきました。この用語・概念をめぐるのは、様々な定義が与えられてきましたが、この演習ではそうした諸定義と諸理論を整理しつつ、「親密性」「親密圏」の概念をととして、公的領域以外における様々な関係性を扱います。そのなかには家族関係、友人関係、恋愛関係などが含まれます。

この演習では、近年、海外の地理学的研究領域を中心に展開され、他の学問領域にも広まってきている「ホーム（家庭）」を中心に引き上げ、このホームが親密性を取り扱う社会学の領域でどのような意味を持ち、さらにいかなる理論的視角を構築することができるかを考察します。

【文献】

- 本多真隆 2023 『「家庭」の誕生—理想と現実の歴史を追う—』 筑摩書房
木戸功・松本洋人・戸江哲理（編著）2024 『日本の家族のすがた—語りから読み解く暮らしと生き方—』 青弓社
村上あかね 2023 『私たちはなぜ家を買うのか—後期近代における福祉国家の再編とハウジング—』 勁草書房
筒井淳也 2008 『親密性の社会学—縮小する家族のゆくえ—』 世界思想社

【後期 親密性の社会学演習（親密性とジェンダー）火曜2限】

「家族」を研究対象とする社会学の一領域としては、「家族社会学」がありますが、現在の家族をめぐる状況の変化・変容に対して、従来の「家族」という概念で分析することは難しくなっています。そうした問題に対するオルタナティブとして、「親密性」「親密圏」という概念が提案されるようになってきました。この用語・概念をめぐるのは、様々な定義が与えられてきましたが、この演習ではそうした諸定義と諸理論を整理しつつ、「親密性」「親密圏」の概念をととして、公的領域以外における様々な関係性を扱います。そのなかには家族関係、友人関係、恋愛関係などが含まれます。

とくにこの演習においては、「親密性」という枠組みにジェンダーという概念や枠組みを重ね合わせて、いかに親密圏が生み出されて行き、変容していくのかを考察していきます。

【文献】

- 阪井裕一郎 2024 『結婚の社会学』 筑摩書房
高橋幸・永田夏来（編）2024 『恋愛社会学—多様化する親密な関係に接近する—』 ナカニシヤ出版
筒井淳也 2015 『仕事と家族—日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか—』 中央公論社
筒井淳也 2016 『結婚と家族のこれから—共働き社会の限界—』 光文社
筒井淳也 2025 『人はなぜ結婚するのか—性愛・親子の変遷からパートナーシップまで—』

【前期 性現象論演習（ジェンダーと文化） 木曜 2 限】

「セクシュアリティの社会学」は、社会学の領域のなかでジェンダー／セクシュアリティを考察する学問分野です。歴史的には、セクソロジー研究や「病理」としての同性愛研究にさかのぼることもできますが、一般的にはフェミニズムやジェンダー論の影響を受けつつ、レズビアン／ゲイ・スタディーズの研究蓄積や枠組みを取り入れながら、既存の社会学の方法論を批判的に問い直す指向性も有しています。

この演習では、セクシュアリティという研究対象や領域と強い関連性を持ちながら、異なる分野を形成するジェンダーという視角を中心に提起、とりわけ文化的な事例を中心に考察していきます。

【文献】

風間孝・河口和也 2010 『同性愛と異性愛』 岩波書店

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子 2018 『教養としてのセクシュアリティ・スタディーズ』 法律文化社

宮田りりい 2025 『トランスジェンダーの生活史—多様なジェンダー形成を切り開くために—』 晃洋書房

森山至貴 2017 『LGBT を読みとく—クィア・スタディーズ入門—』 筑摩書房

【後期 クィア・スタディーズ演習（クィア理論という方法）木曜 2 限】

「クィア」という考え方は、主に 1980 年代終わりから 90 年代初頭のアメリカで登場し、その後、学問研究／運動・実践の双方の領域で展開されるようになりました。91 年にテレサ・デ・ラウレティスが「クィア理論」という用語を提唱したことは、クィア・スタディーズという学問分野が形成される画期とも言えます。

この演習では、レズビアン／ゲイ・スタディーズ、その後のクィア・スタディーズにおいて醸成された理論がいかに現実の諸問題のなかから生まれ、またその問題自体に介入しようとしてきたかについて体系的に考察します。

【文献】

河口和也 2003 『クィア・スタディーズ』 岩波書店

菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編著 2019 『クィア・スタディーズをひらく 1 アイデンティティ、コミュニティ、スペース』 晃洋書房

菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編著 2022 『クィア・スタディーズをひらく 2 結婚、家族、労働』 晃洋書房

菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編著 2023 『クィア・スタディーズをひらく3 健康／病、障害、身体一』 晃洋書房

◆卒業研究の指導について

卒業研究の指導で受け入れ可能な学生は、これまで河口の演習科目を履修したことがある方に限定します。また、卒業研究は登録の時間割上では授業のコマは指定されていませんが、実質的には授業コマを設けることにします。2026年度は、火曜日4限に入れる予定です。履修希望者のみなさんは、3年次末には12000字以上のレポートを、4年次の9月には16000字以上の卒業研究草稿を完成させておいてください。また、成績において一定の条件をクリアした場合には、大学院の特別科目等履修生として大学院の授業を履修することができます。大学院特別科目等履修の希望がある場合にもご相談ください。